

## 優秀賞

# 永遠に生きるために

奈良県 山添村立山添中学校一年 南和沙

夏休み、私は二日間母の仕事を手伝いに行きました。母の仕事というのは父の仕事でもありません。私の父は去年の秋急に亡くなりました。父の仕事は養鶏所の社長でした。父が使っていた機の引き出しの中には、私が昔父にあげたシャープペンシルがまだ入っていました。少し、父にふれあえた気持ちが出て、とてもうれしかったです。私があげたシャープペンシルをずっと大切に使用してくれていたことが分かって感激しました。

私がやった仕事は卵のラベルの賞味期限の印字を間違えていないか一枚一枚チェックし、チェックを終えたラベルを卵をパック詰めしている工場へ運んで行くことでした。間違いがあっては大変なことになるので、とても緊張して丁寧にやりました。一日に何回も運んだので、職場のおばさんとも仲良くなりました。三時の休憩のとき、おばさんたちのお茶会に参加させてもらいました。そのとき、おばさんたちは父の話をしてくれました。十人くらいの人それぞれが父との思い出を話してくれて、とてもうれしい気分になりました。

養鶏所には、約十万羽のにわとりがいます。だから、毎日卵が十万個は生まれるから、作業はとても大変です。「産むな」と言っても、にわとりは卵を産むので、卵が余ってしまったらとても大変です。もし腐ってしまったらもったいないし、処分が大変です。だから、とても難しい仕事だなど思いました。そんな仕事をやっていた父や母はすごいなと思います。私は仕事をする

のが初めてなので、いい経験になったなと思いました。大人は仕事をするのが普通だと思っていただけで、仕事ってすごく難しいし、つかれるし、しんどいんだなと思いました。でも何も言わずにがんばっていた父は、すごいと思います。まわりから見たら当たり前かもしれないけれど、私にとっただけで、色々教えてくれていて、私には思いません。だから私の心の中でまだまだずっと生きていこうと思います。でも、それは私の心の中だけではありません。家族や、そして会社の従業員の心の中にも、父はまだ生きています。父をいつまでも覚えていてくれるのは、家族だけではないということを知ってとても感動しました。私も父のような、いつまでも自分のことを覚えていてもらえる、そんな人間になりたいです。